

開催概要

日時 令和6年1月21日(日)
午前10時00分～午後1時15分
場所 舞鶴市商工観光センター

目的 医療現場の現状や、地域医療に関する取り組みを市民の皆さんにお伝えし、舞鶴の医療を支える医療従事者とともに、地域の医療提供体制について考えていただく機会にする。

主催 舞鶴市
共催 舞鶴医師会
舞鶴医療センター
舞鶴共済病院
舞鶴赤十字病院
市立舞鶴市民病院

来場者 250名(参加登録263名)

次第

- ◆開会
主催者あいさつ (舞鶴市長 鴨田秋津)
来賓あいさつ (舞鶴市議会議長 上羽和幸)
- ◆第1部
「地域医療に関する取り組みについて」
(持続可能な地域医療を考える会中間報告)
舞鶴市長 鴨田 秋津
- ◆第2部
パネルディスカッション
～医療現場の現状と今後の展望～

○コーディネーター
市立舞鶴市民病院 病院長 井上重洋

○パネラー
京都府立医科大学 医療センター所長
皮膚科学教室教授 加藤 則人
舞鶴医療センター院長 法里 高
舞鶴共済病院 病院長 沖原 宏治
舞鶴赤十字病院 院長 片山 義敬
舞鶴医師会 会長 隅山 充樹

◆質疑応答

第1部「地域医療に関する取り組み」 (持続可能な地域医療を考える会中間報告)」

鴨田市長から、舞鶴市における地域医療の変遷から、この間の地域医療に関する取り組みについて説明。

- 本市の地域医療の変遷
- 公的4病院における医師数、看護師数、患者数等の推移
- 現在の市の取り組み(持続可能な地域医療を考える会)
 - 第1回：現状、医療現場で直面している課題
 - 第2回：看護人材確保
 - 第3回：救急医療
 - 第4回：災害時医療
- 最後に
「10年後、20年後の未来においても安心して受けられる医療提供体制の確保に努める」



第2部 パネルディスカッション「医療現場の現状と今後の展望」

それぞれの登壇者が所属する医療機関が、地域で果たしている役割を紹介したのち、直面している課題について説明・議論を行った。
(地域で果たす役割は別添資料のとおり)

議論は主として以下のテーマに関して行われた。

- 医師不足
- 看護師不足
- 救急医療体制
- 経営課題
- 今後の展望

【コーディネーターまとめ(要旨)】

医師や看護師等の人材不足や救急医療体制、経営課題に関する課題は大きく、その解決策に非効率な医師配置の是正などが挙げられた。
「自助・共助・公助」という言葉にもあるように、自助・共助でも解決できない時には公助が必要。公のリーダーシップに期待。課題解決に向け、地域住民の思いを第一に未来志向での議論が必要。



質疑応答

5名の方から次の質問・意見が寄せられた

- 医療センターの設備に関して
- 妊娠・出産期、子育てにおける支援について
- 将来の病院統合について
- 奨学金制度、消防に関して
- 本市不在の常勤医について
- 住み慣れた地域で自分らしく暮らせるシステムの構築について



アンケート結果

- 回答数195件(回答率78%)
- 回答者の9割が、シンポジウムは有意義だったと肯定的に受け止められた

質問	全体	医療従事者	非医療従事者
「とても有意義だった」とした割合 (「ある程度有意義」とした回答(全体48%)は除く)	42%	35%	58%
地域医療の課題は「よく知っていた」	35%	48%	25%
地域医療を考えるきっかけになった	53%	52%	58%
今後も参加したい	90%	96%	94%

第2部 パネルディスカッション「医療現場の現状と今後の展望」

課題に関する議論の概要(要旨)は以下のとおり。なお、この議論の前に、病院長や医師会長等が説明した内容(各機関が地域で担っている役割や直面している課題)に関する資料は別途参照のこと。

【医師不足】

- ・非効率な医師配置(例:外科、産科など)が、課題を生じる原因になっている側面がある。
- ・仮にいずれかの公的病院に機能集約できたとしても、医業収支に影響し、経営的課題が生じる。
- ・医療の質は、医師の数が多いほどその病院の手術成績は向上する。医師がひとつの病院に在籍することで、専門領域とは異なる症例に触れる機会も多くなり、視野を広げる学びの場になると同時に、大学の使命でもある若手医師の育成にも資する。
- ・病院には入院患者がいるため、当直医が必要になる。これが4つの病院だと4人の当直医を要する。病院数が少なくなれば、夜間当直のローテーションも計画的に配置でき、医師の負担軽減にもつながる。
- ・効率的に医師を配置していくことは、医療の安全と質を高めるうえでも重要であり、令和6年度からは働き方改革が導入される。これらのことは時代の流れでもある。

【看護師不足】

- ・看護師が不足することによって病棟閉鎖につながるケースもある。
- ・現在、4病院の看護部が連携し、看護人材の確保に取り組もうとしている。潜在看護師の確保も含めて、市内の看護人材の確保につながることを期待する。
- ・子育て等をしながらか看護師として働かなくても働けない環境・条件になっていると受け止められている側面もある。

【救急医療】

- ・救急搬送件数は増加傾向にある(平成20年約3,300件→令和5年約4,300件)
- ・一次救急(軽症)を担う休日急病診療所が、二次救急(入院等が必要)を担う病院の負担軽減につながっている。
- ・三次救急(救命救急センター)は福知山市民病院が担っているが、舞鶴医療センターでは脳卒中、舞鶴共済病院では循環器に関する設備とスタッフを備えた集中治療室が設置されており、三次救急並みの受け入れを行っている。
- ・救急医療の課題は平日夜間における内科対応。春から働き方改革も導入されるため、平日輪番を組むことも有効な手段にもなる。いずれにしても病院間連携が重要。
- ・#7119など、専門家による電話相談も有効な手段であり、市民への周知啓発が求められる。

【経営課題】

- ・病床稼働率が低下する中、経営課題が大きくなっている。
- ・機能集約等を進めようとしても、経営的な懸念が生じてくる。

【今後の展望】

- ・2045年には舞鶴市の人口が5.8万人になると推計される中で、開業医を含めた医師の確保がますます重要。
- ・AIや医療DXが当たり前になってくる。今まで人が行っていたことを機械がやることもこれから増えてくる。
- ・「病院の先生に聞かない」「先生に聞いてもらわない」という気持ちはわかるが、将来は機械のほうが正確でよくなる可能性もある。



日曜日の当番病院における平均内科患者数(昼間)

	休日診療所 開設日	休日診療所 開設日以外
令和4年度	8.3人	22.1人
令和5年度	8.1人	22.9人

コーディネーターによるまとめ

- 医師や看護師等の人材不足や救急医療体制、経営課題に関する課題は大きい。その解決策として「非効率な医師配置の是正」「救急医療体制の整備」「人材の中央センター化」「更なる病院間連携」などが挙げられ、各機関が様々な努力をしていることも、認識いただいたと思う。
- 「自助・共助・公助」という言葉がある。現状を踏まえると、自分で努力する「自助」はすでに限界にきている。病院間で連携する「共助」は今までも行ってきたし、今後も必要になる。それでも問題が解決できないときに、公の助け、すなわち「公助」が求められ、今は公の組織によるリーダーシップが期待される。
- 課題を解決するには、これまでの選択と集中を主とした連携、あるいは再編統合も視野に入れた連携など、様々な手法が考えられる。いずれにしても、舞鶴市民と舞鶴の医療のことを第一に考えた未来志向の議論を行うことが大切である。